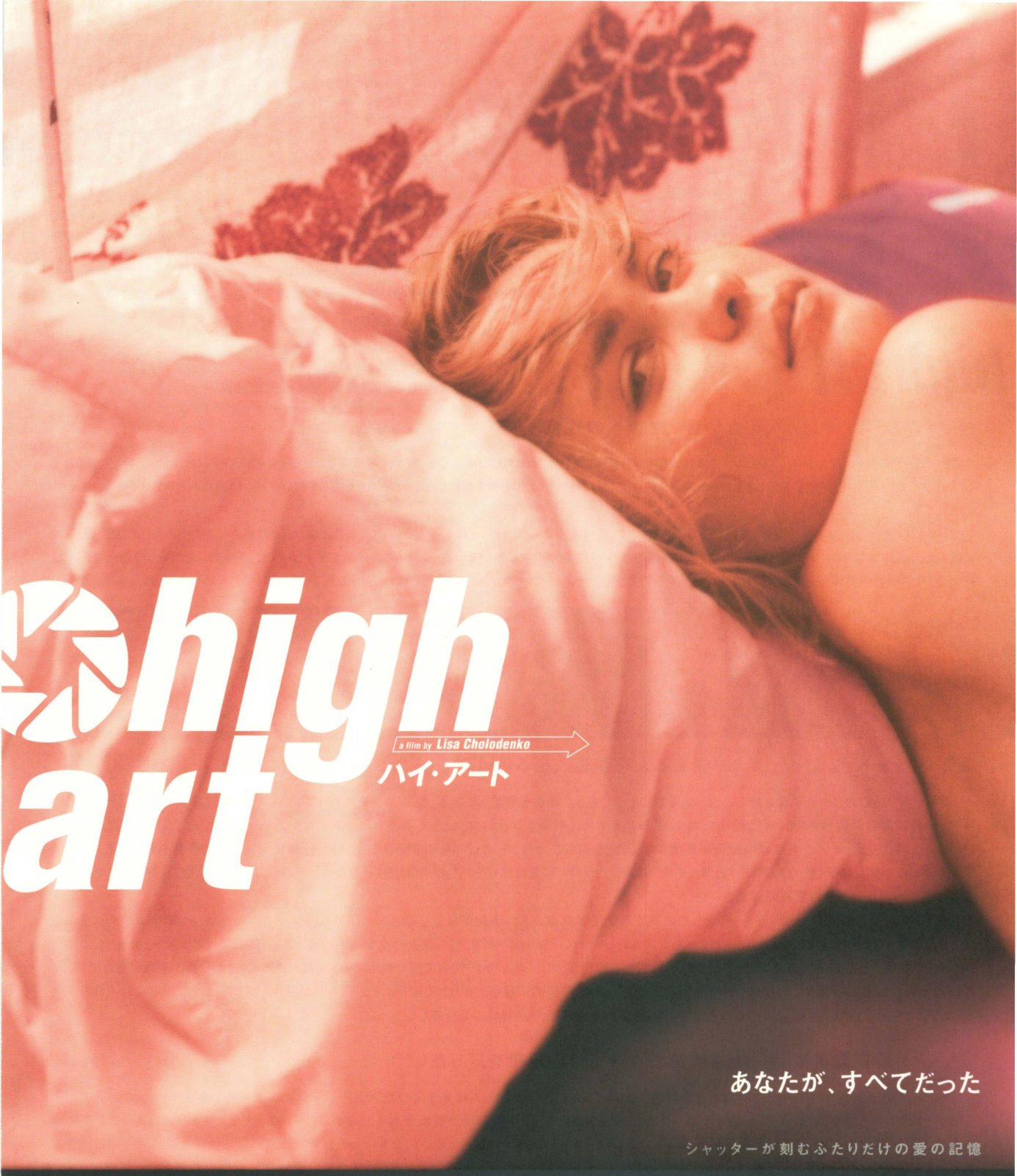


391 presents a Dolly Hall production a Lisa Cholodenko film "High Art" Ally Sheedy Radha Mitchell Gabriel Mann Patricia Clarkson Bill Sage Anh Duong David Thornton and Tammy Grimes as "Vera" casting by Billy Hopkins Suzanne Smith & Kerry Barden music by Shudder To Think music supervisor Tracy McKnight costume designer Victoria Farrell editor Amy E. Duddleston production designer Bernhard Blythe director of photography Tami Reiker stills & "Lucy Berliner" photograph Jojo Whilden associate producer Lori E. Seid producers Dolly Hall Jeff Levy-Hinte Susan A. Stover written and directed by Lisa Cholodenko

1998年ロサンゼルス批評家協会最優秀女優賞（アリー・シーディ）
1998年全米批評家協会最優秀女優賞（アリー・シーディ）
1998年インディペンデント・スピリッツ賞5部門ノミネート
（最優秀初監督作品賞／最優秀脚本賞／最優秀女優賞／最優秀撮影賞／最優秀助演女優賞）
1998年サンダンス映画祭最優秀脚本賞
1998年トーヴィル映画祭審査員特別賞
1998年カンヌ国際映画祭監督週間正式出品作品

監督：リサ・チョロデンコ／出演：ラダ・ミッチェル／アリー・シーディ
1998年／アメリカ映画／カラー／1時間41分／配給キネティック
http://www.kinetique.co.jp/

ハイ・アート high art

シャッターが刻むふたりだけの愛の記憶

98年 ロサンゼルス批評家協会最優秀女優賞（アリー・シーディ）
98年 全米批評家協会最優秀女優賞（アリー・シーディ）
98年 インディペンデント・スピリッツ賞5部門ノミネート
98年 サンダンス映画祭最優秀脚本賞
98年 ドーヴィル映画祭審査員特別賞
98年 カンヌ国際映画祭監督週間正式出品作品

仕事への野心、かけがえのない愛、成功への代償・・・

ニューヨークのフォト・マガジン「フレーム」で憧れの編集の仕事に就いた24歳のヒロイン、シド。かつて写真家として輝かしい成功を収めながら、作品発表をめぐるごたごたに巻き込まれ、突然姿を消してしまったルーシー。ささいな偶然がふたりを引き合わせたときから、彼女たちを思いがけない運命へとみちびく美しい愛の物語が始まる。

アーティストたちに厳しいプレッシャーを強いるニューヨークのアートビジネスの世界。『ハイ・アート』は、異なる立場からその世界に関わるふたりの女性をリアルに描き出し、近年稀にみるアメリカ・インディペンデント映画の傑作として数々の賞に輝いている。監督はこの作品で華々しいデビューを飾った新鋭リサ・チョロデンコ。彼女は、今や世界中の脚光を浴び、この作品に感銘を受けたジャン＝ジャック・ベネックス監督のラブコールに応え、次回作の共同プロジェクトも進行中である。

プライヴェート・フォト ―― 愛する人を写真に撮る、そして撮られるという親密な関係

「フレーム」誌のカヴァー写真を飾ることは写真家にとって大きな成功を意味している。編集アシスタントに昇格したばかりのシドは、ルーシーをもう一度アートの表舞台に復帰させるという野心に燃え、恐る恐るボスに相談する。ビジネスとして写真を撮る気のないルーシーにとって、シドの提案は気乗りのしないものであったが、シドを自分の担当編集者にすることを条件にカヴァーの仕事を引き受ける。初の大仕事に大抜擢され夢見心地のシド。しかし、事態はまったく彼女の予期しない方向へと滑り出す。ルーシーが今、写真に撮りたいもの、それはシド自身だったのだ。素直な感情から愛する者を写真に撮ること、それがルーシーの写真の原点だった。

近年、日本でも私生活の一部をモチーフとして表現する女性写真家たちの活躍が目立っているが、『ハイ・アート』の物語は、80年代以降の大きな潮流であるプライヴェート・フォトの火付け役となったナン・ゴールディン、ジャック・ピアソン、ラリー・クラーク（『キッズ』、最新作『アナザー・デイ・イン・パラダイス』の監督でもある）といったニューヨークの写真家たちの世界からインスパイアされて描かれている。写真を撮る者と、撮られる者の親密な関係。その極めて個人的な私写真が“ハイ・アート（高尚な芸術）”として商業的に祭り上げられる皮肉。そして、シドが迎える結末のように、ときには人生を変えてしまうほどの力を持つ「写真」というものを、これほど鋭くあぶり出した作品はかつて存在しなかった。

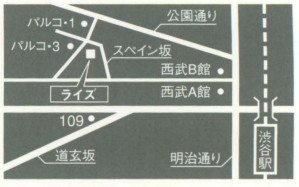
「もっとも心に素直で、もっとも情熱的なふたりに喝采を送りたい。」 ―― タイム誌

『セント・エルモス・ファイアー』（85）など青春映画のヒロインとしてハリウッドで脚光を浴びたアリー・シーディは、クールでボーイッシュな外見と内面の激しさを合わせもつ写真家ルーシー役で大胆なイメージチェンジを遂げ、各賞の最優秀女優賞を総なめにしている。人生のキャリアの入り口で苦い成功の味を知るヒロイン、シドの感情を見事に表現しているのは『ラヴ&カタストロフィ』（96）のラダ・ミッチェル。野心に燃え、仕事と愛に精一杯の情熱を注ぐ若き編集者シドのキャラクターは、私生活でも実社会でも、心に率直に、自分らしく生きたいと願うすべての現代女性の深い共感を呼ぶに違いない。

監督・脚本：リサ・チョロデンコ　撮影：タミー・ライカー　音楽：シャダー・トゥ・シンク（『ベルベット・ゴールドマイン』）　サウンドトラック盤：4月21日 メルダックより発売
出演：ラダ・ミッチェル、アリー・シーディ、パトリシア・クラークソン、アン・ドゥオン、ビル・セイジ
1998年／アメリカ映画／1時間41分／ヴィスタ・サイズ　配給：キネティック　http://www.kinetique.co.jp/

初夏ロードショー！

渋谷公園通りパルコパート3前
シネマライズ
Tel.03-3464-0051　E-mail : rise@cinemarise.com

特別鑑賞券 ¥1,600（税込）絶賛発売中
当日券料金　一般¥1,800／学生¥1,500／中・高校生¥1,000／小人・シニア¥1,000（税込）

●劇場窓口にてお買い求めの方に特製ポストカードをプレゼント！